電子工学13トランジスタとシリコンバレー

津山工業高等専門学校 情報工学科 講師電気通信大学 先進理工学科 協力研究員藤田一寿

真空管

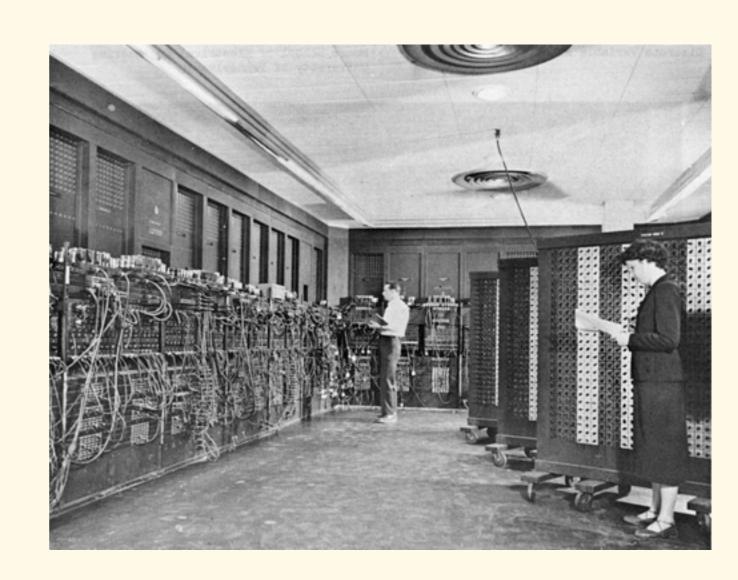
- **用途**
 - ▶増幅
 - ▶ 整流

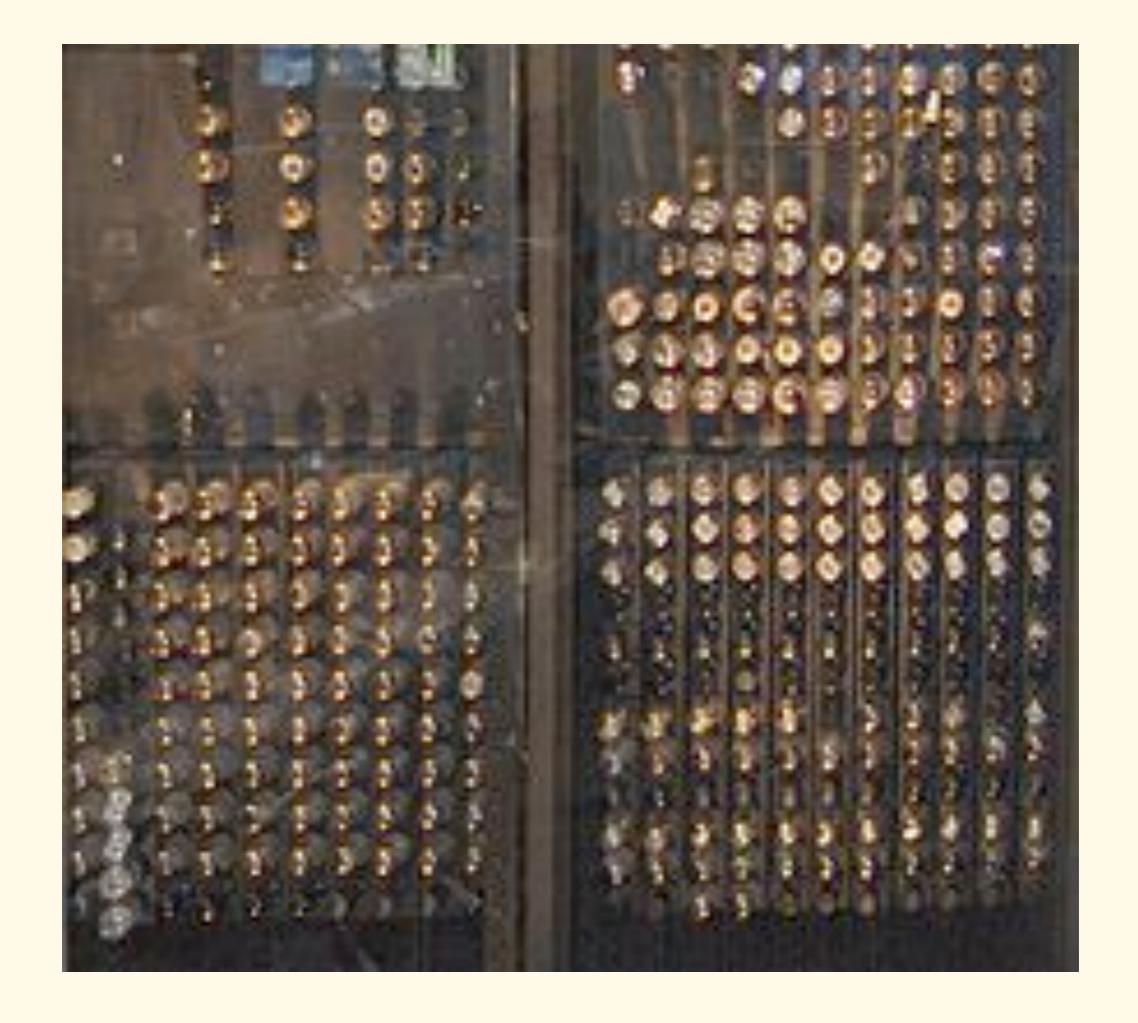


真空管でコンピュータを作る

- ► ENIAC (1946年)
 - ▶ 真空管17468本
 - ダイオード7200個
 - ▶ リレー1500個
 - ▶ 抵抗70000個
 - ・ コンデンサ10000個

▶ 設置スペース167m2





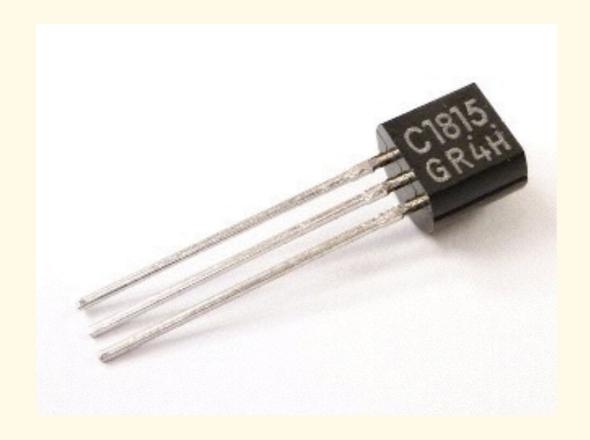
真空管の欠点

- ▶ 場所をとる
- ▶ 耐久性がない
- 製造コストが高い
- ・高温になる

トランジスタが解決する

トランジスタの発明

- ▶ トランジスタ(transistor)
 - トランス(trans)とレジスタ(resistor)を融合させた造語
 - スイッチング、増幅の機能を持つ



ベル研究所で発明

- ・半導体で増幅器を作りたい(整流器には使われていた)
 - 総指揮 ウィリアム・ショックレー
 - 表面の性質と整流特性の評価 ウォルター・ ブラッテン
 - ・半導体内部の性質 ジェラルド・ピアソン
 - ・ 表面と内部の理論的研究 ジョン・バーディーン

ベル研究所とは

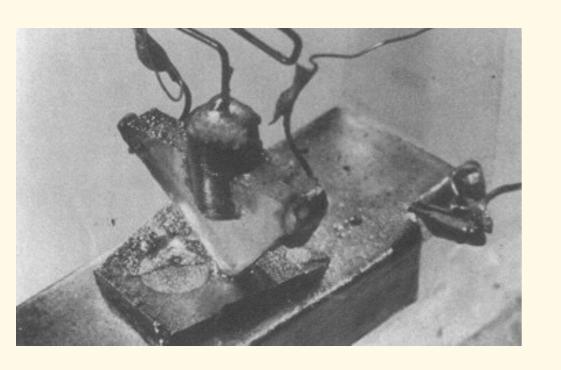
- AT&Tが1925年作った研究所
 - ・様々な発見、発明を行う
 - ▶ 熱雑音(ジョンソンノイズ)を発見
 - ▶ 物質波の研究 (ノーベル賞)
 - トランジスタ
 - ▶ 情報理論
 - ▶ カルノー図(1953)
 - ・レーザー
 - MOS FET
 - ・宇宙マイクロ波背景放射(ノーベル賞)
 - ▶ UNIX(リッチーとトンプソン)
 - CCD
 - C言語(リッチー)
 - 光通信
 - ▶ K&R
 - ・ セルラー方式
 - ▶ 無線LAN
 - , など

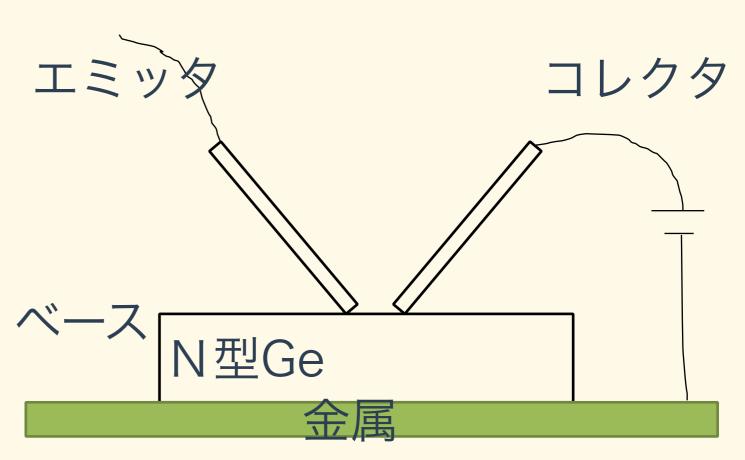


トランジスタ開発の流れ

- ▶ バーディーンが表面の研究に専念するよう提案
- 1947年偶然半導体の増幅作用を発見(接点型トランジスタ)
 - ブラッテン、バーディーン
- 1947年接合型トランジスタの発明
 - ショックレー
- 1956年ノーベル物理学賞
 - バーディーン、ショックレー、ブラッテン

接点型トランジスタ





ショックレーのその後

- 1955年 ショックレー半導体研究所所長
 - 人柄的にうまくいかない
- 1957年8人の裏切り者が出る
 - ムーア, ノイスら
 - フェアチャイルドセミコンダクター設立
- 1968年 集積回路のビジネスをやるためノイス、 ムーアがインテル設立

- ショックレーは優生学にハマり社会的に爪弾き 者に
- 葬式には息子すら来ない

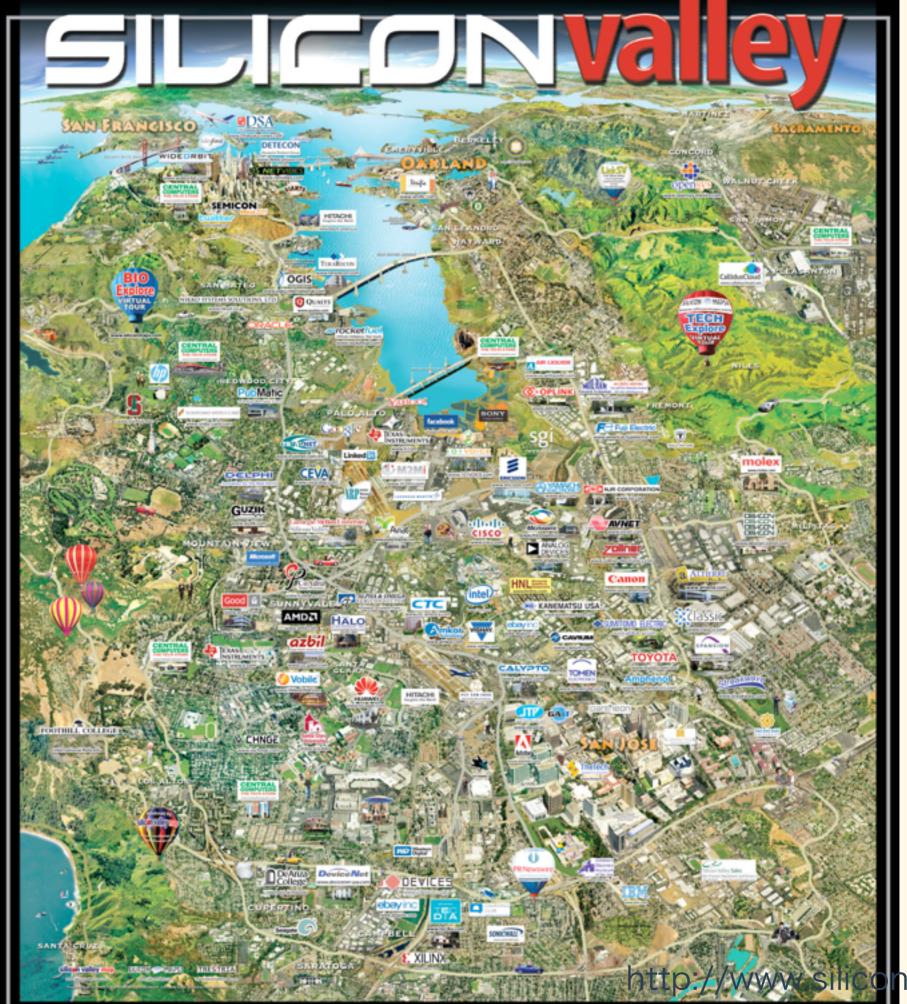
バーディーンのその後

- 1951年イリノイ大学教授
 - ・超電導の研究
- ▶ 1957年バーディーン、クーパー、シェリーファー によりBCS理論発表
- 1972年ノーベル物理学賞受賞
 - ノーベル物理学賞を2度受賞したのはバーディーンのみ

ショックレーとシリコンバレー

- ショックレー半導体研究所はどこにあった
 - シリコンバレー
 - ショックレーの実家があった
- ショックレーから離れていった人たちがシリコンバ レーで起業
 - さらにそこをやめた人がシリコンバレーで起業
 - ・ さらに…



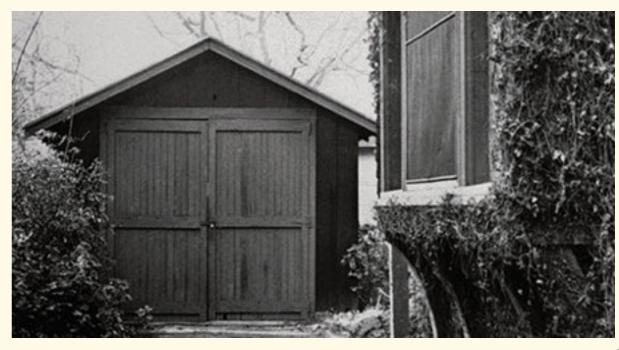


シリコンバレーの歴史

- 1885年 スタンフォード大学
- ▶ 1939年 Hewlett-Packard
- ▶ WWII 軍事関連産業
- ▶ ターマン先生、工業団地を作る
 - スタンフォード リサーチ パーク
- 1956年 ショックレー研究所設立
 - ▶ リサーチパーク1号
- 1957年 Fairchild (商用集積回路を実現)
- ▶ 1968年 Intel

Hewlett-Packard

- 1939年スタンフォード大学(ターマン先生)の支援を得て、HewlettとPacherdがシリコンバレーで会社を設立
 - ・電子機器の開発製造
 - ガレージはシリコンバレーの聖地



hpより

産業の変遷

- ▶ 軍需産業
- 半導体産業
- ・パソコン産業
- インターネット産業

集積することの効果

- いろいろな人が集まる
- ▶ 敵が身近にいる
- 少し移動するだけでビジネスの商談ができる
- ▶ 同業者が集まると、1社ダメでも他の会社に相談できる。
 - とりあえずシリコンバレーに行こう